

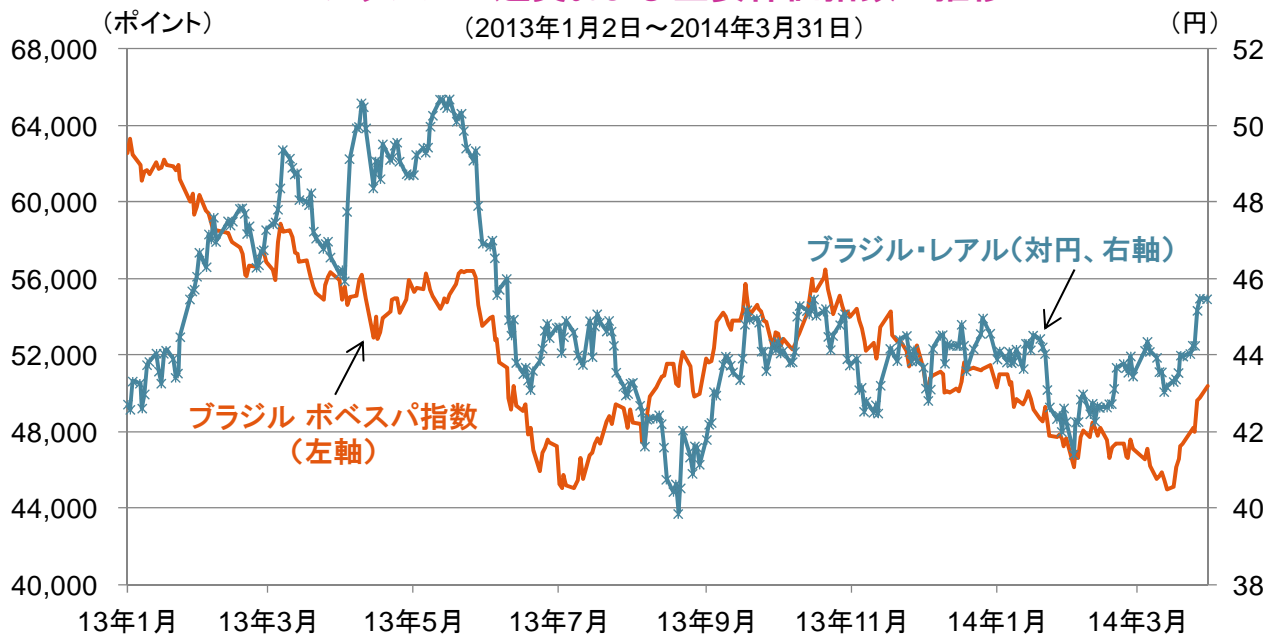
足元で急速な回復をみせる ブラジルの通貨および株式市場

昨年5月以降、米国の長期金利の上昇をきっかけに、新興国の通貨や株式市場が下落し、中でも、経常赤字やインフレ率の高さ、軟調な経済情勢などを背景に、ブラジルの通貨および株価の下落が大きくなりました。今年に入ってからアルゼンチン・ペソの急落に伴う新興国通貨不安の高まり、中国景気の先行き不安、ウクライナ情勢の緊迫化などが続き、ブラジル金融市場の重石となりました。

しかしながら、足元でその動きに変化があらわれ始めています。ブラジルの通貨レアルは2月を底に上昇基調に転じ、3月の騰落率(対円)は+4.6%となり、主要株価指数であるボベスパ指数も、3月半ばから急速に値を戻し、3月の騰落率は+7.1%となるなど、主要国の中でも好調なパフォーマンスとなりました。通貨および株式の上昇の背景には、市場の懸念材料の後退や織り込みが進み、投資家のリスク回避姿勢が緩和したことが挙げられます。これを受け、これまで新興国の先行きに対する懸念などから先進国などの通貨に逃避していた資金が新興国に戻り始めた可能性も考えられます。これらに加え、ブラジルでは、3月後半に中央銀行がインフレ見通しを引き上げたことにより、金利先高観が強まったことや、10月の大統領選挙を控えた現政権が、与野党対立を踏まえて国営石油会社に対する政府規制を緩和するとの観測が浮上したことなどが好感され、通貨と株価の上昇に拍車がかかったものと考えられます。

一方、足元のブラジルのファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)が改善しているわけではなく、また、金融引き締めが続けば景気を下押しする要因となります。そのため、ブラジルのこれらの問題に焦点が当たるような場合には、通貨や株価が下落しやすい傾向にあることには注意が必要です。ただし、金融市場は先を見て動く市場であることから、現在の変化が今後の市場の流れを示す可能性に注目が集まります。

ブラジルの通貨および主要株価指数の推移



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。